

登録コード:MH249300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	脂質検査学実習【20M・21M】 Lipid Metabolism Testing		
担当教員	山内 一由 平 千明		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/3年 前期(後半) 火曜・3時限 火曜・4時限		
単位数、講義室	1単位	保健学科241講義室 保健学科分析系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		脂質定量検査・リポ蛋白分画検査の原理を理解する。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		脂質・リポ蛋白検査結果およびホルモン検査結果の臨床的意義を理解する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		脂質定量検査・リポ蛋白分画検査を実施できる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、生体試料中の脂質、ホルモン、ビタミン等の生化学的検査の講義と実習を通じて、当該検査を精確に遂行する手技と知識を教授する。さらに得られた検査結果について、その検査管理学的評価方法および臨床病態学的解釈について教授する。 本授業では、1年次に学んだ「生化学」、「生理学」、「検査機器総論」および2年次に学んだ「病態化学検査学」の知識を前提に臨床化学を応用した臨床検査について学び、4年次の臨床実習に必要となる重要な基礎知識を習得する。 本授業は、担当教員の生化学検査室での臨床検査の実務経験を活かして講義・実習を行う。		
授業計画	第1回(6月16日) 脂質・リポ蛋白代謝【講義】(山内) 第2回(6月16日) 脂質検査法【講義】(山内) 第3回(6月23日) Abell-Kendal法によるコレステロール測定【学内実習】(山内) 第4回(6月23日) Abell-Kendal法によるコレステロール測定【学内実習】(山内) 第5回(6月30日) 酵素法によるトリグリセリド測定【学内実習】(山内) 第6回(6月30日) 沈殿法によるHDL-コレステロール測定【学内実習】(山内) 第7回(7月7日) 【中間試験】(山内・平) 第8回(7月7日) リポ蛋白検査【講義】(山内) 第9回(7月14日) 電気泳動法によるリポ蛋白分画測定【学内実習】(山内) 第10回(7月14日) 電気泳動法によるリポ蛋白分画測定【学内実習】(山内) 第11回(7月14日) 電気泳動法によるリポ蛋白分画測定【学内実習】(山内) 第12回(7月21日) ホルモン検査法【講義】(山内) 第13回(7月21日) ホルモン検査法【講義】(山内) 第14回(7月28日) ビタミン類検査法【講義】(山内) 第15回(7月28日) 各種疾患マーカー検査法【講義】、授業アンケートの実施(山内) 第16回(8月4日) 【期末試験】(山内)		
授業の進め方	教科書と講義・実習資料を用い講義し、それに基づき実習し、レポート提出する。データのまとめの講義をし、検査法の理論と問題点を理解し、実際に正確・精密な検査が実施できるようにする。		
テキスト、教材、参考書	【教科書】臨床化学検査学(浦山修他編, 医歯薬出版) 【参考書】臨床検査法提要35版(金井正光編, 金原出版) 【教材】実習用プリント		
成績評価の方法	中間試験(35%), 期末試験(35%), レポート評価点(20%), 実技・実習態度(10%)を総合して評価し、総計の60%以上を合格とします。基本的に実習の欠席は認めないが、やむを得ず欠席した場合には個別の対応を考慮する。中間試験は第8回(7月7日)に筆記試験として実施します。中間試験では、血清脂質およびリポ蛋白に関する基礎知識、各種血清脂質定量法の原理、注意点・問題点、その解決法、臨床的意義についての理解度を確認します。期末試験は第16回(8月4日)に筆記試験として実施します。期末試験では、リポ蛋白分画検査、ホルモン検査、各種疾患マーカー検査の原理、注意点・問題点、その解決法、臨床的意義についての理解度を確認します。		
成績評価の基準	総合成績評価は、90-100点:秀, 80-89点:優, 70-79点:良, 60-69点:可とする。 記述式回答では、用語の適切さ、説明内容の論理的妥当性及び平易性等を指標とし、自主学習で問題点を見つけ、十分適切に記載してあれば「卓越している」、やや不十分であれば「やや上にある」、半分程度であれば「水準にある」、見つけれられていなければ「水準にない」とする。レポートの評価は4段階で行う。実験結果に対する考察が十分にできていれば「卓越している」、ある程度できていれば「やや上にある」、実験結果がきちんとまとめられていれば「水準にある」、実験結果がきちんとまとめられていなければ「水準に足りない」と評価する。 実技・実習態度は実習時間中に教員が巡回し、3段階「良い」「普通」「悪い」で評価す		

成績評価の基準	る．
事前事後学習の内容	【事前学習について】 事前に実習説明書をよく読み、実習の目的を理解するとともに、必要試薬量・器具類の準備ができ、実施方法を頭の中で具現化でき、結果を予測できるように準備してください．併せて、実習に関連する項目について教科書、参考書、講義資料を参考に予習と復習をしてください． 【事後学習について】 一人で検査を実施できるようにするため、頭の中で検査手技の手順や問題点について振り返りを行ってください．レポート作成においては、検査結果を見やすく整理し、他人に説明できるように考察をまとめてください．「他人に説明できるような考察」をまとめるには、教科書、参考書、講義資料等を参考に当該検査に関する知識を確実なものにすることが必要になります． 本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします． 授業時間30時間(2時間×15回)+自己学習時間15時間(1時間×15回) = 45時間 *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください．
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	予習と復習を必ず行うこと．特に、実習説明書で予習しないとスムーズに実習ができません．時間内に終わられるように十分予習して臨んでください． 質問への対応：授業中および終了後にて受け付けるほか、E-mailでも受け付けます。 オフィスアワー：随時（要事前連絡） 山内 一由 yamauchi@shinshu-u.ac.jp